

令和7年度 第9回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

■日 時：令和7年12月19日（金）午後2時～3時50分

■場 所：第2庁舎6階小打合せ室

■出 席：（敬称略）

（委員）（5名）石川 伊智郎、浅田 多津子、藤間 利明、室 英治、
西尾 克人

（事務局）（3名）田口 敦、熊谷 一茂、青木 大地

■欠 席：（敬称略）

（委員）（1名）杉村 康之

（事務局）（1名）柳下 豊宏

■議 事

1. 報告

① 令和7年度 第8回検討調整会議事録・・・

- ・（事務局：青木）議事録内容について説明。前回、市民協働共創促進事業におけるワークショップの運営費用の配分について質問がなされたため、参考見積を踏まえた概算を口頭にて補足した。費用感としては、ワークショップ2回＋グループミーティング1回、広報・会場・人件費・運営費・消耗品等を含め150万円程度となる見通しである。まずは、事業者から提案を募るための記事案を作成し、そのうえで委託の仕様を固めていきたい。
- ・（藤間委員）ワークショップ・グループミーティングを経て、過去に作成された「府中市環境保全活動センターのあり方」のようなアウトプット（提案書）を事業者に求めるべきである。一般論に傾かず、府中市独自の提案となるよう、ワークショップで市の意見を反映した成果を事業者から提出させるのが良い。最終的なアウトプットを踏まえて、予算確保・理事者説明・2028年に向けた予算獲得、2029年以降の実施につなげたい。

② 活動センター事業について・・・

- ・（事務局：青木）「府中市環境保全活動センター事業予定一覧」に沿って、直近の事業について報告。
「市民協働まつり」：センターPRのパネル展示、活動紹介写真、かんきょう塾チラシ配布を実施した。
「つくろう！学ぼう！自然・環境体験学習（最終回）」：中央文化センターでリース作りを実施（8家族16名参加）。土曜授業や体調不良などで参加が伸びなかった。
「府中かんきょう塾⑦」：雨天もあり参加者は18名と少なかった。藤間委員に司会進行を務めていただいた。

「市民環境セミナー」：会場確保は進めていたが内容が固まらず、今年度の開催は見送りとなった。来年度の6月（環境月間）での実施に向け、講座内容及び講師を検討する。

「春の親子かんきょう塾バス見学」：午前には狭山丘陵（野山北・六道山広園）で苗木の植付体験を調整中、午後は「小平市ふれあい下水道館」の自由見学とする2本立て案。大型バスで7時間枠（8時出発～15時半解散予定）、募集は35～36名程度の想定。2/15号広報で周知する。

「市民桜まつり」：かんきょう塾ネットとの共同展示を予定している。

- ・（浅田委員）ルミエールで行われた農工大の田中教授による土壌に関する講座が評判であったらしい。府中かんきょう市民の会として、講座を依頼するか検討している。

③ その他・・・

- ・（事務局：青木）12月15日に今年度初めての広報部会を開催したが、部会メンバー計3名のうち2名（石川委員、三宅氏）は欠席となった。山田氏と当職のみでの開催となり、山田氏からも今回で最後にしたいとの申し出を受けた。広報部会はメンバー減により存続が難しいため、当面は検討調整会に統合して広報議題を扱えないだろうか。なお、直近で決める内容としては、今年度のセンターだよりの発行についてである。年1回の発行で、原稿の取りまとめは事務局主体としつつ、内容について検討調整会で議論して必要項目を盛り込められたらと考えている。
- ・（委員一同）広報部会の解散及び検討調整会への統合について、了承された。
- ・（石川委員）部数によって費用感は大きく変わらないが、作成したセンターだよりをどこに配布するかについても考えた方がよい。

2. 議事

① 活動センターの運営方法について・・・

前回以降に出された意見を踏まえて更新した「（修正2）市民協働・共創促進事業 環境保全活動センター記事案」について、委員・事務局より以下のとおり意見がなされた。

- ・（浅田委員）「府中市環境保全活動センターのあり方」が作成された時期と今とでは状況が違ふ。環境という言葉は市民への訴求語として抽象的になってきているため、防災・高齢化・農業の衰退などの市民課題と環境を重層的に結び付ける視点も持つべきである。後期基本計画とのリンクを意識し、センターがどの重点項目と協働・共創していくかを示すと響くのではないか。
- ・（室委員）環境政策課として、センターをどのようにしていくべきかという

議論はなされているのか。

- ・(事務局：熊谷) 行政側では市民ニーズが把握しきれていないため、まずはワークショップで広く意見を募り、軸を固めたいと考えている。
- ・(藤間委員)「手を挙げる事業者・団体」が内容を理解しやすいよう、アウトプットの期待像を記事案に明記すると良い。本事業で採択されるためには、事業者が審査員の前で行うプレゼンテーションにおいて、公開されている各審査項目を満たしているかが重要である。また、来週月曜日には今年度第2回の公開プレゼンテーションがプラッツにて行われるため、参考に傍聴する予定である。
- ・(西尾委員) 記事案の3ページ目の冒頭箇所「以下の事項を含む」において、5つ事項が挙げられているが、内容の重複があるため、工夫すると良い。
- ・(浅田委員) 地域の課題差に応じて検討会(ワークショップ)をエリアごとに複数開催し、潜在ニーズの顕在化を図るべき。また、2回の開催では吸い上げが不十分になる懸念あり。
- ・(事務局：田口) 事業者側が提案しやすいような記事案にするため、何かアドバイスがあればいただきたい。
- ・(藤間委員) 審査項目に記事案が応答可能になっているかが重要である。募集側は「困っていること」を明確に書き、提案側はそれにフィットする解決策を書ける構造にするべきである。ワークショップで終わりにするのではなく、団体や他部署との連携等、開催後のつながりも含めた提案をしてもらう必要あり。
- ・(事務局：熊谷) 事務局としても、審査の雰囲気をつむむため、来週月曜日に開催される公開プレゼンテーションを視察する予定である。
- ・(藤間委員) 記事案については、最低限の依頼条件だけに留めて提案の幅を狭めない方が良い。

② その他・・・無し。

4. その他・・・

次回は、令和8年1月19日(月)午後2時～@第2庁舎6階小打合せ室での開催に仮決定。開催前には委員全員へリマインドメールを送付する。